

音楽鑑賞会～礼拝堂で宗教音楽を聴く

【対訳 井田 泉】

2019/9/11 (マリア会第4回)

1. モーツァルト「アヴェ・ヴェルム・コルプス」(さいわいなるかな、まことのお体) 【3:35】

K.618 「聖体賛歌」と言われる。「聖体」とは「聖なるキリストの体」のことで、聖餐式(ミサ)で信徒がいただく「聖別されたパン」を指す。これはキリスト愛の命をあらわす。46小節の小品。絶妙な転調を含む美しいメロディーは静謐な祈りの空気をもたらす。神の子が肉体をとり(クリスマスの出来事)、まことの人間となって十字架の苦しみを負われたこと、またその体が聖餐のパンとなってわたしたちに与えられることの幸いを歌う。

Ave verum corpus, natum de Maria virgine: Vere passum, immolatum in cruce pro homine: Cujus latus perforatum, unda fluxit et sanguine; Esto nobis praegustatum in mortis examine.	さいわいなるかな、まことのおからだよ おとめマリアよりお生まれになった。 まことに苦しみを受け、犠牲となられた 十字架上で、人類のために。 彼の脇腹は刺し貫かれ 水と血を流された。 わたしたちの糧となってください 死の試練に先立って。
--	--

(トン・コープマン指揮 アムステルダム・バロック管弦楽団&合唱団)

2. モーツァルト「戴冠(式)ミサ」から「アニュス デイ」(神の小羊) 【6:27】

K.317 ミサ曲とはミサ(聖餐式のこと。キリスト教のもっとも中心的な礼拝)の中で歌われるために作曲された音楽。この曲は復活祭の式典のために作曲されたが、その後、レオポルト2世の戴冠式で演奏されたことから「戴冠(式)ミサ」と呼ばれるようになったという。この曲は全6曲のうちの最後、陪餐(聖体拝領)の直前に歌われる。洗礼者ヨハネがイエスを見たときに思わず発した言葉「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」(ヨハネ 1:29)にもとづく。イエスは世と人の罪をわが身に引き受け、ご自身の命を神にささげて死なれた。これによって世の罪は除かれ、人は罪と負い目の束縛から解放された。イエスに憐れみを祈り求める歌。

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, miserere nobis. Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, miserere nobis. Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, dona nobis pacem.	世の罪を除く神の小羊よ われらを憐れみたまえ 世の罪を除く神の小羊よ われらを憐れみたまえ 世の罪を除く神の小羊よ われらに平安を与えたまえ
---	---

3. バッハ「教会カンタータ 147 心と口と行いと生活は」から

第5曲 アリア「備えたまえ、イエスよ、あなたの道を」 【4:28】

バッハはキリスト教ルター派の熱心な信徒で、礼拝のために膨大な音楽を作曲し、また演奏した。これは「マリアのエリサベト訪問の祝日」(5月31日)の礼拝のための音楽で全10曲からなる。

「カンタータ」とは、器楽伴奏をとめない、ソロや合唱など多くの部分から構成される声楽曲。これはソプラノのアリア。

Bereite dir, Jesu, noch itzo die Bahn, mein Heiland, erwähle die gläubende Seele und siehe mit Augen der Gnaden mich an.	備えてください、イエスよ、今あなたの道を、 わたしの救い主よ、選び取ってください この信じる魂を。 そして恵みのまなごしを注いでください わたしに。
--	--

4. 同 第6曲 コラール「幸いなるかな、われはイエスを得たり」【3:29】

「主よ、人の望みの喜びよ」という名前で曲のみが広く知られているが、これはカンタータ147の合唱曲で、第1部の最後に歌われる第6曲。第2部の最後に歌われる第10曲も曲は同じ。

Wohl mir, daß ich Jesum habe, O wie feste halt ich ihn, Daß er mir mein Herze labe, Wenn ich krank und traurig bin. Jesum hab ich, der mich liebet Und sich mir zu eigen gibet; Ach, drum laß ich Jesum nicht, Wenn mir gleich mein Herze bricht. (参考第10曲)	なんとわたしは幸いなことか、わたしにイエスがおられる [わたしがイエスを持っている] とは。 ああ、どれほど堅くわたしは彼を抱くことか。 イエスはわたしの心を力づけてくださる、 わたしが病のときも、悲しみのときも。 イエスがわたしにはおられる。イエスはわたしを愛し、 ご自身をわたしに与えてくださる。 ああ、そのゆえにわたしはイエスを離さない、 たとえわたしの心が破れても。
Jesus bleibt meine Freude, Meines Herzens Trost und Saft, Jesus wehret allem Leide, Er ist meines Lebens Kraft, Meiner Augen Lust und Sonne, Meiner Seele Schatz und Wonne; Ach, drum laß ich Jesum nicht, Aus dem Herzen und Gesicht.	イエスは変わることはないわたしの喜び、 わたしの心の慰め、わたしを潤すもの、 イエスはすべての苦しみを防いでくださる。 彼はわたしの命の力、 わたしの目の喜びにして太陽、 わたしの魂の宝、この上ない喜び。 ああ、そのゆえにわたしはイエスを離さない、 わたしの心と目から。

(カール・リヒター指揮 ミュンヘンバッハ管弦楽団&合唱団)

5. バッハ「教会カンタータ110」から 第1曲「われらの口は笑いに満ちて」【8:59】

クリスマス礼拝のためのカンタータ110(全7曲)の最初の曲。華やかな器楽合奏で始まり、途中から合唱が入る。歌詞の意味は大略次のとおり。

「わたしたちの口が笑いで、わたしたちの舌が賛美で満たされますように。

主がわたしたちに大いなることをしてくださったからです。」(旧約聖書・詩編126:2)

(フリッツ・ヴェルナー指揮 西南ドイツ室内管弦楽団)

6. 同 第7曲(終曲) コラール「神は今日、喜びを与えてくださった」【1:01】

クリスマスの喜びを歌うが、長調ではなく短調。喜びのどこかに悲しみの響きがある。降誕の主イエスさまは受難を目指して来られたことを感じさせる。わたしたちのすべての悲しみは、救い主イエスの愛によって包まれる。そのゆえにこそ喜びが深い。「コラール」はドイツ・ルター一派教会の聖歌で、会衆がみんなで歌うもの。「衆賛歌」と訳されることもある。

Alleluja! Alleluja! Gelobt sei Gott, Singen wir all' aus unsers Herzens Grunde. Denn Gott hat heut' gemacht solch' Freud', Die wir vergessen soll'n zu keiner Stunde.	アレルヤ！アレルヤ！神が賛美されますように。 わたしたちは皆、わが心の底から歌う。 なぜなら神は今日このような喜びを与えてくださったから。 わたしたちはそれをどんな時にも忘れまい。
--	---

7. ヘンデル「メサイア（救世主）」から 「パストラレーレ」【2:55】

ヘンデルの長大なオラトリオ（宗教的音楽劇）「メサイア」の第1部「救い主到来の約束と降誕」から。「Pifa (Pastoral Symphony) 田園曲」器楽曲。
2000年前、羊飼いたちが羊を守るいつもと変わらないベツレヘムの夜の野原。しかし今夜何かが起ころうとする不思議な予感がただよう。この後、天使が救い主の誕生を知らせる。

8. 同 アリア「彼はその群れを羊のように養い」【6:04】

救い主の到来を告げるイザヤの預言は、イエス・キリストにおいて実現した。イエスは羊飼いとなってわたしたちを集め、導かれる。イザヤ書の言葉が歌われた後、音程が4度上がって同じメロディーがマタイ福音書の言葉で歌われる。ここではイエスの招きの言葉が一部変更され（「わたし」→「主」）、「イエスご自身の招き」が「イエスへの招き」となっている。

He shall feed his flock like a shepherd: and He shall gather the lambs with His arm, and carry them in His bosom, and (shall) gently lead those that are with young. (Isa. 40:11)	主は羊飼いとして群れを養い、 御腕をもって集め、 小羊をふところに抱き、その母を導いて行かれる。 (イザヤ書 40:11)
Come unto Him [me], all ye that labour and are heavy laden, and He [I] will give you rest. (Matt. 11:28)	疲れた者、重荷を負う者は、誰でも主のもとに来なさい。 主はあなたがたを休ませてくださるであろう。 (マタイ 11:28) [] が元の聖書の言葉

※日本語は新共同訳を記したので、英語の歌詞と若干異なるところがある。
(ウィリアム・クリスティ指揮 レザール・フローリサン)

9. バッハ 「フーガ ト短調」【4:12】

BWV578 オルガン曲。フーガは、同じ旋律が複数の声部に次々に現れるのが特徴。
器楽曲、ことにオルガン曲にはバッハの祈りがこめられている。
(ヘルムート・ヴァルヒャ)

10. シューベルト 歌曲「連禱」【4:59】

D343 ドイツ語のタイトルは Litanei auf das Fest Aller Seelen（諸魂日のための嘆願）。
亡くなった人々を記憶し、その魂の平安を祈る歌。

Ruh'n in Frieden alle Seelen, Die vollbracht ein banges Quälen, Die vollendet süßen Traum, Lebensatt, geboren kaum, Aus der Welt hinüberschieden: Alle Seelen ruhn in Frieden!	平和のうちに憩いますように、すべての魂が。 恐ろしい苦しみを終えた人々、 甘い夢をまっとうした人々、 もう十分に生きて、(あるいは) 生まれてまもなく この世から去って行った人々。 すべての魂が、平和のうちに憩いますように！
---	---

<p>Und die nie der Sonne lachten, Unterm Mond auf Dornen wachten, Gott, in reinen Himmelslicht, Einst zu sehn von Angesicht: Alle die von hinnen schieden, Alle Seelen ruhn in Frieden!</p> <p>Auch die keinen Frieden kannten, Aber Mut und Stärke sandten Über leichenvolles Feld In die halbentschlafne Welt: Alle die von hinnen schieden, Alle Seelen ruhn in Frieden!</p>	<p>そして、太陽に向かって笑ったことがなく、 月の下で、茨の上で夜を明かして、 神を、清らかな天の光のうちに、 いつか顔を合わせて見ようとした人々。 すべてここから去った人々、 すべての魂が、平和のうちに憩いますように！</p> <p>また、平和を知らずに、 勇気と力によって、 しかばねの満ちた野の上に 半ば眠りに落ちた世界に送られた人々。 すべてここから去った人々、 すべての魂が、平和のうちに憩いますように！</p>
---	--

(歌：イアン・ポストリッジ 伴奏：シュリアス・ドレイク)

1 1. シューベルト「ドイツミサ曲」から「サンクトゥス (聖なるかな)」【3:52】

D 872 ヨハン・フィリップ・ノイマンが記したドイツ語のテキストに、シューベルトが作曲したものの。全 9 曲中の第 5 曲。イザヤが神殿で聴いた天使の合唱が元になっている。(ウィーン少年合唱団)

<p>Heilig, heilig, heilig, heilig ist der Herr! Heilig, heilig, heilig, heilig ist nur er! Er, der nie begonnen, Er, der immer war, Ewig ist und waltet, Sein wird immerdar.</p> <p>Heilig, heilig, heilig, heilig ist der Herr! Heilig, heilig, heilig, heilig ist nur er! Allmacht, Wunder, Liebe, Alles ringsumher! Heilig, heilig, heilig, heilig ist der Herr!</p>	<p>聖なる、聖なる、聖なる、聖なるかな、主は！ 聖なる、聖なる、聖なる、聖なるかな、ただこの方は！ この方は、はじめなく この方は、つねにおられた。 永遠であって統治される。 いつまでもおられる。</p> <p>聖なる、聖なる、聖なる、聖なるかな、主は！ 聖なる、聖なる、聖なる、聖なるかな、ただこの方は！ 全能、驚き、愛、 あらゆるものがその周りに！ 聖なる、聖なる、聖なる、聖なるかな、主は！</p>
---	---

1 2. 同 終曲「主はわが祈りを聞き」【1:41】

礼拝は喜びと希望を与えられて終わり、そこからわたしたちは新しく出発する。

<p>Herr, du hast mein Fleh'n vernommen, Selig pocht's in meiner Brust, In die Welt hinaus, in's Leben Folgt mir nun des Himmels Lust. Dort auch bist ja du mir nahe, Überall und jederzeit. Allerorten ist dein Tempel, Wo das Herz sich fromm dir weiht. Segne, Herr, mich und die Meinen, Segne unsern Lebensgang! Alles unser Tun und Wirken Sei ein frommer Lobgesang.</p>	<p>主よ、あなたはわたしの切なる祈りを聞いてくださいました。わたしの胸の内に何かがこの上ない幸せに鼓動しています。世界に、また生きていくことに向かうわたしにいま天の喜びが伴います。 そこにもあなたはわたしに近くおられます どのような所、どのような時にも。 あらゆるところはあなたの神殿です、 人が心を深くあなたにお献げするところは。 祝福してください、主よ、わたしとわたしの周りのものを。 祝福してください、わたしたちの人生の歩みを！ わたしたちのすべてのわざと働きが 真心からの賛美の歌となりますように。</p>
--	--

